

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第2回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・地域活動支援事業について（ヒアリング）

(2) 報告事項（公開）

・地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について

3 開催日時

令和4年5月18日（水）午後6時30分から午後8時47分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫
高橋清司（副会長）、田中利夫、塚田春枝、松山公昭（欠席3人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【青木会長】

・会議録の確認者：松山委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業について（ヒアリング）」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・進め方を説明

【青木会長】

今ほどの説明について質問を求める。

(発言なし)

ヒアリングを始める。

ヒアリング中の進行は事務局に一任する。

【山崎主事】

「土-1 高齢者の見守り活動・お楽しみ交流会・弁当配食事業」のヒアリングを始める。

【土-1 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「土-1」について質疑を求める。

【松山委員】

弁当配食が 180 食となっているが、1 か月あたり、どのぐらいなのか。

【土-1 提案者】

弁当は、月 15 食となっており、15 食×12 か月で考えている。

【高橋副会長】

「高齢者のお楽しみ交流会」について、町内会長に参加者を取りまとめてもらうとあるが、高土地区内で老人会組織は何団体くらいあるのか。

【土-1 提案者】

たまたま自分は飯田町内と妙油町内で行っている高土長生会の会長と、上越市老人クラブ連合会の副会長を務めているのだが、高土地区内で団体として残っているのは、4 つである。

【松山委員】

見守り活動について、世帯数や人数等ほどの程度なのか。

【士-1 提案者】

見守り活動については、各町内の方々にお願いしているため、具体的な対象等はそれぞれの町内会の考え方によって異なる。

例えば、同じ高齢者であっても「独居だが見守りしなくてよい」等、定義がないのだが、具体的な数字を示したほうがよいか。

【松山委員】

だいたい数字でよいので、分かれば教えてほしい。

【士-1 提案者】

高齢者見守り活動の対象は、30世帯であり、うち、1人暮らしが22世帯、高齢者世帯が8世帯となっている。

だが先ほども説明したように、各町内により捉え方が異なるため、一律ではない。

それと同時に、夜間だけではなく、日中も見守り活動をしている町内もあれば、そうでない町内もある。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

「士-2 地区だより『たかし』発行事業」のヒアリングを始める。

【士-2 提案者】

- ・事業説明

【山崎主事】

「士-2」について質疑を求める。

【松山委員】

「事務消耗品 たより紙（A3版）」と「印刷費」が分かれて支出の部に計上されているが、印刷業者には紙を渡して印刷してもらうのか。

印刷業者の見積額には紙代は含まれていないのか。

【士-2 提案者】

印刷代については、1回 30,500円で3回お願いするのだが、これに紙代は含まれていない。

【上野委員】

常日頃より、たよりの発行を楽しみにしている。

カラーで年に3回発行しているが、反響はどうか。

【士-2 提案者】

正月号、高士ルミネ、そして高士地区で一番多く人が来るであろう8月の3回をカラー版で発行している。非常に好評を得ているところである。

【高橋副会長】

確認である。

昨年度のカラー印刷の月は8月・1月・3月であったと思うが、今年度は8月・1月・2月と記載されている。変更となった理由はあるか。

【士-2 提案者】

2月は高士ルミネを予定している。

例年であれば、8月に各町内でいろいろな行事があるのだが、昨年度は、なかなかそういった行事ができなかった。そのため、2月号は「趣味の回」として、いろいろな趣味のものを掲載したと思う。

【山崎主事】

他に質問等あるか。

(発言なし)

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「士-3 高士地区お買い物ツアー事業」のヒアリングを始める。

【士-3 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「士-3」について質疑を求める。

【青木会長】

今後、どんどん高齢化率が高まることを考えたときに、本当に地域にとって必要な事業になっていくと思う。

代表の「これは絶対に守りたい」との発言はありがたいことであり、来年度以降、どのようなかたちで実施するのも含めて、実施するからには、毎月決まった日に行う等、皆が楽しみになるような事業となっていくべきだと、個人的に思っている。

地域活動支援事業は今年度で終了するが、来年度以降も、いろいろと考えて実施して行ってほしいと思っている。

【松山委員】

車の運転をやめる人が増えてきて、通院の交通手段といったことはこの行政も行っておらず、国でも行ってない。いつも思っているが、よい案が浮かばない。

婦人会で行っている中の1つに、通院時の送迎等そういったきっかけができれば、ありがたいと思っている。

現在、行っている事業は、当然続けて行ってほしい。自分の思いである。

【土-3 提案者】

今後、新規の人を集めなければならないとの課題がある。

昨年度は、1人・2人は新しい人が参加してくれている。徐々に参加者が増えることが何よりだと思っている。

現在、まだ車の運転をしている人には「まだ必要ない」と言われる。

今後、車に乗ることができなくなった際に利用してほしいと思っている。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「土-4 高土地区の安全安心対策事業」のヒアリングを始める。

【土-4 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「土-4」について質疑を求める。

【玄蕃委員】

やはり、地域の安心・安全が1番の基礎というか、重要な部分だと思っている。

そういった意味では、万が一の時に備えて、まずは地域で活動できる・守れる準備がとても大事だと思うのだが、現在のコロナ禍の状況の中であまり全体での防災備品等を使用した訓練が行われていない。

提案書の「事業の実施スケジュール」では、今年度は10月下旬に災害物品確認と体験訓練を予定しているようだが、まだ内容は分からないのか。

これまでにも、釜を購入する等、総合的な訓練は行っているが、実践的な訓練は予

定しているのか。

【土-4 提案者】

今年度はコロナ禍ということもあり、昨年度と同様に、町内会長・団体長・防災士会の会員で行いたいと考えている。

各町内会長・防災士の会員については、それぞれの町内に戻って普及活動をしてもらいたいと思っている。特に、防災用品はいろいろあるので、どのように使うのか等の説明を共有してもらいたいと思う。

コロナ禍が収束すれば、今後は全般的な活動をしていきたいと思っているが、現状ではそれはまだ分からない。

従って、まず自分たちの考えとしては、10月に各町内会長・団体長・防災士会会員に研修会等を行い、それを町内に戻って共有してもらいたいと考えている。

今回購入を希望している備品等は希望する町内へ貸し出したいと思っている。

特に現在、南方町内には防災用品が出来上がり、かまども来た。そのため、南方では使い方等の訓練を昨年度行っている。

今後は地区でも、同様に考えていきたいと思っている。

【松山委員】

備品の保管場所と、何かあった際にすぐに備品を出すことができるのかを教えてほしい。

また、消防や行政との絡みで、備品等について話し合いをしていると思う。何かあった際、すぐに対応するためには、やはり事前に何度か練習や訓練をしていただきたい。

【土-4 提案者】

保管場所については、高士地区公民館の西側に防災物品倉庫があり、そこにすべて入っている。なお、防災物品庫の鍵については、公民館に置いてある。そして、公民館の鍵については、高津の町内会長宅にあるため、何かあった際には、そこから鍵を持ってきて、物品庫の鍵を開け、それぞれの備品を出すようになる。表示もしてあるので、各自、確認願う。

【玄蕃委員】

物品はある程度の災害に備えて、今回の購入で揃うことになるのか。それともまだ足りないのか。

【士-4 提案者】

結論としては、倉庫に入る分は揃っている。

しかし、災害時、高士小学校には9つの町内会が集まることになり、300人ほどになる。そう考えると足りないと思う。

例えばレスキューシートについても、まだまだ足りない。

そういったところも含めて、今後、結論を出していきたいと思う。

【青木会長】

これまでに、かなりの年数をかけて物品を揃えてきたわけだが、緊急時に必要なものを、一応揃えたのだと思う。

ただ、大災害が起きた場合のことを考えると、まだ不十分だと、個人的には思っている。その辺はどのように対応していくのか。

【士-4 提案者】

防災士会でとりまとめた物品リストを市に提出しており、市危機管理課にも提出している。

今後はそれも含めて、防災士会、並びに防災防犯協会にいろいろと働きかけをして、結論を出すようにしたいと思っている。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「士-5 ノルディックウォークの普及事業」のヒアリングを始める。

【士-5 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「士-5」について質疑を求める。

【玄蕃委員】

これまでに購入したニュースポーツの備品については、高士区内だけの活動なのか。他のものについては、地域の子どもたちも巻き込んで、との話があったと思う。

そもそも、ノルディックウォークとは、どういったものなのか教えてほしい。

区内の人たちだけの活動に留めるのか、どのような展望を考えているのかを教えてほしい。

【土-5 提案者】

令和3年度まで取り揃えたニュースポーツ用具については、高士地区体育協会が管理をしている。

まずグラウンドゴルフとスカットボール、スピードラダーゲッターについては、津有区と諏訪区と3地区合同でニュースポーツを行っている。昨年度まではコロナ禍の影響で活動できなかったが、今年度は行う予定である。

その他のニュースポーツについても、小学校児童に年2回、活動協力をしている。これまで、いろいろなニュースポーツで児童と共に活動してきた。

今後、新型コロナウイルスが収束すれば、高士まつり等でニュースポーツを行っていきたいと思っている。

当団体がニュースポーツの物品を揃えたのは、いろいろなものが高士地区で楽しめる、との気持ちで提案してきた。

今後も機会があれば、高士地区体育協会にて、いろいろな事業でニュースポーツの用具を使用したいと思っている。

【松山委員】

2点、質問である。

ノルディックウォークポールというものが、よく分からないため教えてほしい。

次に、提案書の「事業の内容及び実施方法」に「高士小学校のクラブ活動協力」とあり、「次年度以降の活動の見通し」には、「地区民の参加意識を醸成する」とある。小学校で実施するほか、地区民にも広げていくような計画はあるのか。

【土-5 提案者】

1点目、ノルディックウォークは、スキー板を履かずに、ポールといわれるストックを使って歩くものである。ストックにはピンからキリまであり、安いものは、少し力を入れると折れることがある。そのため、子どもたちにも使用できるものとして、提案書に記載している品物が一番適していると思った。

2点目、今後、地域住民にどのように普及についてである。

最初の11月までの間で行うものは、団体の役員のみではなく、地域住民にも声掛けをして行う。

今後、新型コロナウイルスの状況が収まれば、機会を捉えて計画したいと思っている。

【松山委員】

子ども用のストックという意味か。

【土-5 提案者】

大人用である。

小学校5年生から6年生程度が利用できるものである。

【青木会長】

小学生を巻き込んで、旧高士スポーツ広場で実施することを計画しているようだが、具体的にはどのように行うのか。周辺には坂道があったりするが、そういったところも含めてコースを作るのか。

【土-5 提案者】

一般のコースは、地区公民館から旧高士スポーツ広場と、飯田の堤防から地区公民館を考えている。小学校のクラブ活動については、時間が50分しかないため、小学校のグラウンドから旧高士スポーツ広場まで行って戻ってくるコースを考えている。

【玄蕃委員】

ストックを使用しなければ歩けないのか、それを使うと何か効果があるのか。

イメージが掴めない。

【土-5 提案者】

効果はあるのかというと、効果はある。

普通に歩くと膝や腰に負担がかかる道も、ノルディックポールを使うことによって負担を軽減でき、じんわりと汗もかく。

従って、ノルディックウォークは山登りや少しの坂道でも、軽易に上がることができる。

【松山委員】

知り合いがノルディックポールを使用して歩いているところを、よく見かける。あれはかなり汗をかくため、よいものだと思う。

【青木会長】

膝や腰への負担が少ないため、高齢者にはよいと思うのだが、小学生に対しては、どのような効果があるのかイメージが湧かない。

だが、ノルディックウォークを旧高士スポーツ広場の活性化の一部としてもらいたいと思っている。子どもたちを巻き込むために、子どもたちにどのような効果がある

のか、分かれば教えてほしい。

【士-5 提案者】

自分たちが子どもの頃は、学校のグラウンドでノルディックスキーを行っていたと思うのだが、今の子どもたちはそういったことを経験していない。

今の子どもたちに、「昔はこういったものを使ってスキーをした。グラウンドを走った」ということを、ノルディックウォークをすることで経験してほしいと思っている。

それと併せて、旧高士スポーツ広場、高士地区の沿革を覚えてほしいと考えている。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「士-6 令和4年度 稲谷【だんとうの大杉】保存事業」のヒアリングを始める。

【士-6 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「士-6」について質疑を求める。

【青木会長】

過去何回かの保存活動によって大杉が元気になり、効果が表れていると思っている。

今の説明では、大杉の頭部を切断しなければならないとのことだが、樹勢回復においては、根や根元の対策を行ったからこそ、今の結果があるのだと思う。今回はそういった処置等を行わなくてもよいのか。

せっかく、今の状態までいったため、今後どのように考えているのか教えてほしい。

【士-6 提案者】

本来は今年度、土壌改良を行う予定であった。だが、先ほども説明したように、頂部の腐食・腐敗が激しい。バランス的にも、上の幹の南側半分ぐらいに集中して枝が出ている。唯一、東側にあった枝も3月5日の強風時に折れてしまったため、尚更、バランスが悪い状態であり、風が吹く度にヒヤヒヤしている。

樹齢500年以上で、土壌改良を1回行って、劇的に樹勢が回復することを期待するよりも、樹形を整えてバランスをよくし、尚且つ樹勢をよくしていったほうがよいのではないかと、樹木医との打ち合わせ等で決めた。

【松山委員】

今回は「木を切る」ということだが、どのくらい切るのか教えてほしい。

次に、樹木医が養生する時、どのように長持ちさせるのか。具体的な話を聞きたい。

【士-6 提案者】

頭部を概ね5メートル切り詰めると、樹形としてはよくなるのではないかと考えている。

また、去年も行ったのだが、切り口をうまく整えると、人間でいうと肉が盛り上がってくるというか、どんどん切り口がふさがっていくため、それを行い、尚且つ、腐敗・腐食防止の処理剤を塗って、腐食防止に努めることにしている。

【松山委員】

今回の見積りに腐食防止の処理剤の金額も含まれているのか。

【士-6 提案者】

そこも含めた金額となっている。

【玄蕃委員】

言いにくいことだが、やはり大変大きな金額がかかる。

自主財源の確保というか、例えば、寄付を募る等、何かしらの対応策は考えているのか。今のところ、自主財源の確保は困難か。

【士-6 提案者】

町内的に言うと、一応、若干の予備費のような予算は持ってはいる。ただ、大杉に使えるか否かはこれから町内に諮って見なければいけない。尚且つ、使えるということになるのであれば、寄付等、これからどのようにしていくのかということも考えていかなければならない。

今はとにかく地域活動支援事業で、何とかしていただきたいと考えている。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「士-7 「雪まつり（キャンドルイベント）」開催による地域交流・地域活性化事業」のヒアリングを始める。

【士-7 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「士-7」について質疑を求める。

【松山委員】

先ほど、見積書の再提出があったため、これについて説明願う。

今回は補助希望額も増額しているため、減らさなくてはならないと見ています。

個人的には「会場除雪費」が高額過ぎると思っているが、降雪量等、25万円もかかるとは思えない。どのように考えているのか。

【士-7 提案者】

本日、配布した見積書は「交通誘導委託費」の合見積もりになる。

昨年度より増額している部分の1つでもある。というのも、昨年度のイベントに来た人は知っていると思うが、大渋滞を引き起こしてしまい、十二ノ木から高津くらいまで車列が並んだ。その先の北方の橋のところでも、大変な混雑を起こし、いくつか苦情の連絡等もいただいた。

1番の要因としては、駐車場であるJA倉庫に乗り入れる車だけでなく、通過する車両も車列に並んでしまったことである。駐車場待ちの車列と、通過する車両の道をしっかりと分けて、通過できるように誘導しなければいけないと考えて、誘導員を増やしている。

そういった関係で、今回は警備誘導の部分で昨年度よりも見積額が増えている。その比較材料である合見積もりの提出が遅れてしまったため、本日の配布となった。

次に除雪の関係で、降雪の具合にもよるが、これまでの実績等を考えて、業者から見積もりをいただいている。金額が高過ぎるとの指摘もあるが、それについては業者も含めて、協議・相談したいと考えている。

【松山委員】

除雪については、会場周辺とJA倉庫のところもしているのか。

場所的にどこを除雪しているのか。

【士-7 提案者】

除雪の範囲としては、大きいところでは花火の打ち上げ場所までの農道を割る除雪が1番、距離的にも長く大変な部分かと思う。加えて、多目的センター裏の広場周辺のちょっとした圧雪や除雪も含めた整備、JA倉庫のところの駐車区画が狭いようであれば、少し拡幅してもらいたいような格好でお願いしている。

【高橋副会長】

質問ではなく、要望である。

昨年度、自分も会場準備に参加したのだが、最初に、参加者確認があり、何かあった際の連絡先を記入するカードを頂いた。コロナ禍の中であれだけの人数が参加するため、あのカードを貰ったことで、非常に安心した。

今後、高士地区でもいろいろな団体が様々な行事をするが、あのような対策は非常によかったと思うため、他団体等にも普及させてほしいと思った。

【士-7 提案者】

昨年度、受け付けで配布した参加カードについては、市の観光交流推進課より案内・指導があったものである。そのため他の会場でも、あのようなかたちをとっていたと思う。

現在のコロナ禍において、屋外イベント等ではスタンダードだと聞いている。

他イベントでも、そういったもので管理していくことが必要なのかと思う。

【山崎主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

「士-8 「男の料理教室」開催事業」のヒアリングを始める。

【士-8 提案者】

・事業説明

【山崎主事】

「士-8」について質疑を求める。

【青木会長】

昨年度の新規性に富んだ内容が好評であったと思っている。

今年度も、発酵食品をターゲットに絞るということは、非常に的を射ていると思うため、高士地区でもそういったことを行うことはよいと思う。

【塚田委員】

いつもチラシ等で広報しているものを見て、すごく本格的な料理で、自分も参加してみたいところである。

いつも思うのだが、随分本格的で、参加者も腕が上がったと思う。それをもう少し広くに振る舞うような事業は考えていないのか。

【士-8 提案者】

そういった要望も耳には入っており、そのように期待されることは嬉しいことである。ただ、現段階では何とも言えない。

【塚田委員】

今後に期待したいと思う。

【玄蕃委員】

最初に始めたときは、「自分たちでお金を出してやる料理教室」だと自分は思っていた。だが何年かするうちに、内容をすごく見直された。

そのため、先ほど塚田委員も発言したように、自分たちの活動から少し地域に出たり、どこかと交わったり、そういった接点が出てくると、地域活動支援事業を活用したものとしては、とてもよいと思う。

来年度以降の視点をお伺いしたい。

【士-8 提案者】

来年度以降のことは、正直考えてはいない。

特に今年度、夏野菜と発酵食品に絞ったことについて、夏野菜は今までの反省を生かしたものであり、発酵食品については、皆が美味しいと言い、家庭でも評判がよく、もっと自分たちも発酵食品を勉強していく必要があると思ったためである。

これを踏まえて、来年度ということになる。それはまた、活動をしながら仲間いろいろと作っては反省し、意見を出し合って、その中から組み立てていきたいと思っている。

【松山委員】

ぜひ、高士マルシェの時にチャレンジしてみしてほしい。

【士-8 提案者】

仲間で話し合い、やるということになった時には、仲間に入れてもらいたいと思う。

【山崎主事】

他に質問はあるか。

(発言なし)

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

全ての事業のヒアリングが終了したため、進行を会長に戻す。

【青木会長】

次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業のヒアリングについて」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【小林センター長】

・スライドを使って資料1～6について説明

【青木会長】

今ほどの説明について質問を求める。

【松山委員】

上越タウンジャーナルに、市議会の市長への提言がファイルで載っていたが、それと今ほどの内容については、何か整合性はあるか。

【小林センター長】

最終的には同じ上越市で行う「まちづくり」であるため、そういったことの見解をまとめて参酌しながら、1つのものに仕上げていくことになろうかと思っている。

ただ、議会から出ているものについては、市長が対応を考えている。

自分たちがやることは、地域協議会として決められた自主的審議のやり方、つまりは3つの出口を試行しながら、1つの目標、そしてその先にある方向性を探っていくことである。それに専念していただきたいと思う。

【玄蕃委員】

話がまとまっていないのだが、本日のヒアリングの中でこれを聞いても仕方がないと思いながらも、「次年度以降、地域活動支援事業がなくなった時にどうするのか」ということを全ての団体に聞いてみたかった。

来年度以降は、審査して進めていくような地域活動支援事業費の活用はなくなったわけである。そして今度は「意見書の提出」「元気事業の提案」「地域での課題解決」の3つの中で検討していくことになる。そうすると、自分たちの役割は少し変わってくるわけである。

自分たちはコーディネーター的なこととしていくことになるのか。どうも、今までの役割とは異なってきたと思っている。

【小林センター長】

今も地域協議会は地域団体との調整役である。コーディネーターということは、今

も求められており、これからも求められていくことだと思う。

まず、地域活動支援事業は今年度で終了する。市長は「地域活動支援事業は民間の団体、つまり一般の方々が事業として行うもの」と言われた。「元気事業」とは事業主体が違う。そのため、地域活動支援事業と自主的審議は違うものである。

地域活動支援事業について、今後どうするのかといったことは、今日は説明等することができないが、これから少しずつ見えてくると思っている。

地域協議会委員からは地域活動支援事業ではなく自主的審議に専念し、市の事業として、地域に対する事業を考えていただきたい。

【青木会長】

悶々とする委員が増えたような気もするが、先ほど質問があったように、今後は地域協議会委員の役割等が変わっているのではないか、というところを自分も感じている。だが、変わっていかなければなかなか進んでいかないと思う。

【小林センター長】

モヤモヤしているのは、決して地域協議会委員のせいではない。それは、自分も含めて行政がうまく具体例を提示できないために、判断がつかないだけだと思う。

行政としても、委員にストンと落ちるような説明ができず申し訳ないと思っているが、そこはこれから自主的審議を進めて行く中で示していきたいと思っている。とりあえず今は、あまりモヤモヤせず、時期が来たら説明し、道筋もつけていきたいと思っている。

【青木会長】

以上で次第2 議題「(2) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

- ・ 次回の協議会：6月9日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・ 内容：地域活動支援事業の採択事業の決定

【高橋副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。